

日本健康心理学会メールマガジン No.10



2013年5月21日 第10号

Contents

- 1) 学会からのお知らせ
- 2) 健康心理学コラムvol.7 早稲田大学人間科学学術院 嶋田洋徳先生

1) 学会からのお知らせ

<http://jahp.world.coocan.jp/jahp/index.html>

■第3期役員選挙の実施について

現在、一般社団法人日本健康心理学会定款及び役員（理事及び監事）選挙細則により、代議員（社員）対象に第3期理事選挙を実施しています。選挙のスケジュールは以下の通りです。

5月27日（月）開票
6月23日（日）社員総会にて新理事の承認、新理事会による理事長、常任理事の選出及び承認

■学会からのお知らせ

研究助成公募情報（公益財団法人パブリックヘルスリサーチセンター）（5/1）

<http://jahp.wdc-jp.com/job/job.html>

研修会情報の更新（5/10）

2013/6/8（講師：竹中晃二先生）、2013/6/15（講師：小玉正博先生）

<http://jahp.wdc-jp.com/kensyu/kensyu2.html>

第5回アジア健康心理学会大会

若手発表者への助成（ヤングヘルスサイコロジスト賞）について（5/10）

<http://jahp-international.blogspot.jp/2013/05/5.html>

■各種委員会ページの更新

国際委員会（第5回アジア健康心理学会：若手発表者への助成、シンポジウム企画等）のお願い

<http://jahp-international.blogspot.jp/>

認定・研修委員会（82-83回研究会報告、次回研修会予定）

<http://jahp-certification.blogspot.jp/>

2) 健康心理学コラムvol.7 「子育て支援と健康心理学」（早稲田大学人間科学学術院 嶋田洋徳先生）

児童虐待などの子育てに関する問題は、実際に子を持つ親の世代ばかりでなく、社会的にも関心の高い話題です。このような問題が生じる原因として、子育てにまつわる親のストレスの問題が指摘されています。

これまでの研究では、実際に虐待をするまでにはいたらないとしても、ストレスを感じている親ほど「虐待してしまう親の気持ちが分かる」「自分もいつかは虐待してしまうかもしれない」など、虐待を容認する態度を持ちやすいことが示されています。

最近では、発達障害などを抱えているなど、子育てが困難になりやすい子どもをもつ親を対象として、

認知行動療法の立場から「ペアレント・トレーニング」が盛んに行われるようになり、その効果も実証されてきています。その基本的な考え方は、親と子どもの相互作用を行動分析的にとらえ、その家庭に応じた効果的な方法を身につけるところにあります。

そこで、私はこのようなアプローチの方法を、健康心理学的な観点から、すべての親を対象として、予防的に用いることができないかと考えてきました。

2006年度から埼玉県教育委員会と開発を行ってきた「親の学習プログラム」は、ある特定の望ましい子育てを提唱するのではなく、ステージ理論の考え方やペアレント・トレーニングの考え方を基盤として、具体的なプログラムコンテンツに取り組みながら、その家庭にとって、どのような方法が効果的なのかを参加者に考えることを促す内容になっています。

このような領域でも、健康心理学ができることはまだまだあると考えています。

日本健康心理学会広報・ニューズレター委員会

<http://jahp-public.blogspot.jp/>

メールマガジンの配信停止、アドレス変更については下記アドレスまで。

日本健康心理学会事務局 <jahp-post@bunken.co.jp>

メールマガジンへのご意見・ご感想については下記アドレスまで。
広報・ニューズレター委員会 <jahp-ML@bunken.co.jp>